



興 照 寺 報

平成25年10月

52号

発行 浄土真宗 興 照 寺
〒890-0045 鹿児島市武一丁目25番12号
電話 **099-254-3269** (代)FAX 099-254-0303



来年度よりの休止が決まった六月燈(3面)。以前はやぐらを作り多くの人たちが盆踊りを踊っていました。現本堂が建つ前、昔の寺の建物も懐かしいです。

- 一面 開祖の亡くなった年齢
- 二面 戴くご信心
- 三面 秋季彼岸会法要のお話 平成二十六年の寺行事
六月燈休止について
- 四面 報恩講・追弔法要・春のお彼岸等のお知らせ
平成二十六年のご法事 等

開祖の亡くなった年齢

先日、五木寛之氏の講演を聞きました。

「キリスト教の開祖イエス・キリストは三十代の若さで亡くなっている。キリスト教は愛と天国を説く。清潔感、正義感が感じられ、いわば青春の宗教なのではないか。ステンドグラスの綺麗な教会で結婚式をあげたいと望む若者が多くいる。キリスト教を青春の宗教と呼ぶなら、イスラム教は壮年の宗教ではないか。イスラム教の開祖ムハンマド(マホメット)は六十歳位で亡くなっている。イスラム教はアラアの神の教えを預言者ムハンマドが語り、それを綴ったコーランに忠実に生きていくことを説いた教えた。

そこへいくと仏教は老年の教えであろう。お釈迦様は八十歳という当時としては異常な長命だった。生老病死という人間の四苦、人生は苦であり無常であるという実感を得たのは高齢に達してからだと思われる。

青春の宗教、壮年の宗教、老年の宗教、それぞれ到達した年齢なりの思想というものがある。もし、キリストが八十歳まで生きて、お釈迦様が三十歳で亡くなっていたらどんな思想を残しただろう。」

開祖の亡くなった年齢。イエス・キリストもムハンマドも老いを体験していません。興味深い話でした。

因みに、親鸞聖人は八十九歳まで生き、八十六歳の時「自然法爾」を説いています。落ち着くところに落ち着くんだ」と。年齢を持つてして言える言葉だと思います。

【戴くご信心】

幕末の頃に、讃岐（香川県）の勝覚寺のご門徒に谷口庄松さんという人が居ました。妙好人と尊ばれた方です。その庄松さんがまだ浄土真宗の信心を心から信じ切れなかったころ、勝覚寺の僧・周天に、「私はいくら寺にお参りして話を聴かして頂いても、どうしても安心できません。私が今死んだら地獄に行くしかありません。どうしたらよいでしょうか。今死んでもお浄土へいける信心をどうぞ聴かして下さい。」と、泣いて教えを乞うたそうです。それに対し周天は、「庄松さん、あなたは地獄に落ちる事は無いでしょうよ。お浄土へ行きたい行きたいと言う思いだけでご法義をきくのは願生帰命という自力の考えで間違っています。

願生帰命(がんじょうきみやう)

「弥陀をたのむ」「弥陀に帰命する」とは阿弥陀様にどうか助けて下さいとお願いすることだと
言う誤った考え方。

浄土真宗では、『汝一心正念にして直ちに來たれ。我れ能く汝を護らん』という阿弥陀如来のお呼び声である「南無阿弥陀仏」を聞いたら、「南無が働いて、阿弥陀仏が私に届いて下さる“のです。これが信心になるのだと、ご開山さまも、蓮如さまも教えて下さっています。

信樂帰命(しんぎょきみやう)

「安心」とは「往生ヲタノムタスケタマエ」と願う信心が不動である事を言い、それには他力によるほかは無いとする考え。

それをこちらが手伝う（自分の計らい事が入る）と、阿弥陀さまの邪魔をして、折角のその願いを無効にするのですよ。

「なんまんだぶ」ありがたいですね。これはあなたが戴いたご信心も、私が戴いたのも同じという事です。ご開山さまも、蓮如さまも同じではないですか。阿弥陀様のみ心はもうあなたに届いているのですよ。よかったですね。」と答えたそうです。

この時、庄松さんはお念仏のほかにも、何にも言うことがなかったといひます。

この周天さんのご化導（教化して善に導く）は、「南無阿弥陀仏はおやさま（阿弥陀様）の呼び声であり、それがそのまま信心になる」ということです。

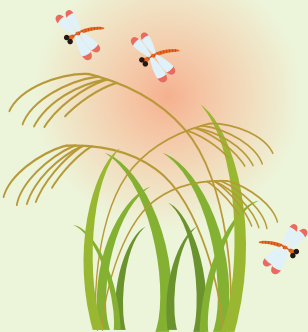
ご開山、親鸞さまのお話になりますが、まだご師匠、法然さまのもとに居られた頃に信心についての論議が交われています。「法然さまの信心と、他の人々の信心とは、同格のものか。」という問題です。お弟子の多くの方が「知識第一といわれ、徳の高い法然さまと、学も浅く、徳の少ない自分たちとは、比べようもない。法然さまの信心は特別に篤く、自分たちの信心はまだまだ足りない。」と言われたといひます。その中で親鸞さまは「南無阿弥陀仏のお念仏を戴く身において失礼ながら、お師匠さまのご信心も私の信心も阿弥陀様から戴いたご信心。なれば同じものと心得ます。」と申されたそうです。そしてその論議を聞いておられた法然さまも「私は善信（当時の親鸞さまのお名）の側

に就くであろう」と言われたといひます。

《戴くご信心》私どもは信心をするとか、信心が足りないとかよく申しますが、それは如何なものでしょうか。法然さまも、親鸞さまも、蓮如様も、庄松さんも、また、お念仏を飲ばれ我々に伝えてくださったご先祖の方々もいづれも同じご信心を戴かれてこられたのです。《戴くご信心》であればこそ総ての者に隔てなく平等なのです。相共に「南無阿弥陀仏」とお念仏を戴く浄土真宗のありがたいみ教えを伝え広めていきたいものです

*前段 庄松さんの話は

昭和五十八年「よび声」九月号
吉川了真氏「問法教室」参照



秋季彼岸法要

講師 山下 信順 先生

私たちが手を合わせお参りさせていただく対象というものは、人間の願いや人間の行いではなくて、仏様の願いや仏様の行いであり、その姿が「南無阿弥陀仏」のお念仏です。

人間の心は変わります。「迷いの心」です。しかし、仏様の心は変わることのない、裏切ることはない、離れることのない心です。「まこと心」です。仏様の心は、隔てのない心ですが、私たち人間の心は隔てがあります。人格や態度、学問で区別していきます。たとえ夫婦であっても人の集まりの中で、すべての相手を認め受け入れることはできません。そんな私たちが、隔てのない願いに手を合わせさせていただく。それが仏様との出会いです。

仏様は、人格を問わない、態度を問わない、学問も問いません。何を問うか。「限りあるいのち」を問うてくださった。「限りあるいのち」をもち合わせながら、自分の思い通りにならない世界で苦悩していく姿を見た時に、仏様は私たちに對して、「頑張れ」とは

おっしゃらなかった。私の有り様のままを認め、受け止めてくださる姿があった。それが「阿弥陀如来」という仏さまです。「阿弥陀」というのは、私のそばから離れることのないという仏さまのこと。「如来」というのは、仏様の世界から私のもとに来てくださった、変わることはない、裏切ることはない仏さまのことです。

真実まことの心をもって、この私をお浄土の世界へ生まれさせ、仏の悟りを開かせずにはおかないと届けられた姿の裏側には、仏様の隔てのない親心があったということを喜ばせていただかなくてはなりません。

私のいのちは、迷いのいのちではなく、仏様の世界へ生まれさせていただくいのちでありましたと、この身の幸せを喜ばせていただかなくてはなりません。

(要旨)



平成26年の寺の行事予定

十二月	十一月	十月	九月	八月	四月	三月	一月
三十一日	二十三日(日)	十八日(土)と十九日(日)	二十日(土)と二十三日(火) (火:お中日)	十五日(金)	十九日(土)と二十日(日)	十八日(火)と二十一日(金) (金:お中日)	一日
除夜会	報恩講 物故者追弔法要	秋季永代経法要	秋季彼岸法要	盆 (一部地域は日が違います)	和順会総会・花祭り・帰敬式 春季永代経法要	春季彼岸法要	修正会(正月法要)

”六月燈“休止について

永年地域の方々に親しんでいただいた六月燈を平成二十六年より休止する事といたしました。近年類似夏まつり等も増え、寺の行事としての意義も薄くなってきたとして判断しました。永年六月燈を支えるため賛助頂いたご門徒の皆様、演技等に参加して下さった方々、学校並びに地域安全関係の皆様、そして永年親しんでいただいた地域の多くの皆様に感謝いたします。

報恩講法要のご案内

・期日 十一月二十四日(日)
 ・時間 朝席 九時半よりと
 昼席 二時より
 ・講師 藤岡 孝教先生(熊本県)
 朝席終了後午後一時半までお齋
 (精進料理)があります。

追弔法要のご案内

報恩講の際、昨年十一月より本年十月までに亡くなられた方々の追弔の法要を午前十一時半より勤めます。ご遺族の方の多数のご参加をお待ちしております。

平成二十六年春季彼岸会法要

三月	午前	午後
十八日(火)	○	○
十九日(水)	○	吹上
二十日(木)	吹上	
二十一日(金)	○	○
お中日	○	○

(○)のある日時にあります

・時間 朝席十時よりと
 昼席二時より
 ・講師 原中 秀峯先生(福岡県)

花祭り

・日 四月六日(日)
 ・時間 十一時より
 ・場所 興照寺本堂
 (和順会総会も合わせて行います)
 六月燈は休止しましたが花まつりは例年通りあります。
 ・花祭り関係諸募集

余興参加者

踊り・カラオケ・詩吟・楽器演奏等の参加者を募集します。ふるってご参加ください。



帰敬式参加者

帰敬式とは法名を受ける式です。法名は本来生前に受けるものです。当寺では、花祭りの際に行っています。是非この機会にお受けください。

余興参加希望の方

の方、帰敬式の方、希望の方は、三月三十一日までにご連絡ください。



日赤への寄付のご報告

毎年六月燈より八月末までに賽銭箱に投ぜられました皆様の浄財を日赤に寄付しております。今年度は五五、八五七円集まりました。皆様のご協力に心より感謝いたします。

落とし物・忘れ物について

傘等の忘れ物が多数有ります。諸法要の際に本堂入口に並べておきます、お心当たりの方は、寺へお申し出下さい。また、引き取りの無かった物は処分いたします。

納骨堂募集

古い納骨壇にも空きが出ました。ご希望の方が居られましたらご連絡ください。



平成二十六年のご法事

左表の下の年に亡くなられた方が、それぞれの年回忌法要に当たっております。

〈ご法事の日どり、時間、場所等は早めに寺にご相談ください。〉

一周忌	平成二十五年
三回忌	平成二十四年
七回忌	平成二十年
十三回忌	平成十四年
十七回忌	平成十年
二十五回忌	平成二年
三十三回忌	昭和五十七年
五十回忌	昭和四十年

あとがき

六月燈が休止されることになりました。小さい頃は一ヶ月以上も前から子供を含む多くの方が晩に集まって盆踊りの稽古をしていました。私も指導の先生におぶわられて出た懐かしい思い出であり、また寂しさも感じずにはおられません。